

## 平成24年度 危機管理士2級講座（社会リスク編）開催レポート

2012年8月2日～4日にかけて危機管理士2級講座（社会リスク編）が六本木の政策研究大学院大学において開催されました。自治体、民間企業に所属される方々をはじめとして、幅広い分野から多くの方々に参加して頂きました。

【2012年8月2日】

### 第一講義（10:00 - 11:30）

開講式・危機管理概論 明治大学 市川宏雄

最初に危機管理士試験2級試験（社会リスク編）の開催意義と講座、試験内容についてのオリエンテーションが行われました。講義では、危機管理の4段階（Mitigation=減災・被害抑止、Preparedness=事前準備、Response=応急対応、Recovery=復旧・復興）など、基本的な概念についての説明がありました。また、行政組織、企業における危機管理、都市に特有のリスク（テロリズム、感染症、暴動）などについて論じました。



### 第二講義 13:00 - 14:30

国民保護 中央大学 幸田雅治

2004年に制定された国民保護法が成立されるまでの経緯、国民保護の定義や流れについての説明があり、また、自然災害との相違点や防災と国民保護の共通点と課題を指摘しました。国民保護については、万が一武力攻撃があった際に正確な情報を瞬時に住民に伝えるための仕組みとしての「全国瞬時警報システム（Jアラート）」に触れ、その運用状況やそれによって配信される情報内容についても説明がなされました。国民保護において重要である「自助・共助・公助」の関係に言及する中で、「まず自助があり、その次に共助があり、そして公助がある」という解釈は誤解である指摘し、「まず自助があるかどうかにかかわらずに、自、共、公はそれぞれが果たす役割がある」ということを強調されていました。



### 第三講義 (14:45 - 16:15)

#### 大規模事故と広域医療対応 東京臨海病院院長 山本保博

大災害時における医療管理の基本原則についてのCSCATTT(Command=指揮命令と調整,Safety=安全管理、Communication=通信、情報伝達,Assessment=評価、Triage=トリアージ、選別、Treatment=応急処置、治療、Transport=搬送)、災害時における時間的経過とそのニーズ(秒・分単位で:自分の命は自分で守るを考えると時間単位で:地域の命は地域で守るを考えると日単位で:救急医療(外科系負傷)を考えると週単位で:避難所医療(食中毒、感染症)を考えると月単位で:心のケア(PTSD)を考えると年単位で:リハビリテーション、復旧、復興を考えると)、医療施設災害対策本部の役割や、医療施設の被災時診療体制などについて講義がなされました。



### 第四講義 (16:30 - 18:00)

#### 地域の安全、防犯 セコム(株) 甘利康文

今後の日本社会の課題として街のゴーストタウン化、スラム化のトレンドからどのようにして守るかを指摘し、オープン空間におけるセキュリティ確保の方法や防犯のソフト的補強手段として、コミュニティが重要であるというお話がありました。東日本大震災を踏まえた予想される都市災害への医療対策について、また、リスクマネジメントの3要素として、リスクファイナンス(万が一の時に金銭的に困らない対策)、クライシスマネジメント(万が一の時の被害拡大防止準備)、リスクコントロール(ことを起きにくくする対策)の関係が、自動車運転や健康管理、火災や情報漏えいの事例に即して示されました。講義の最後には、「最も重要な守るべき対象はその組織のオペレーション」であるということを繰り返し強調しておられました。



## 意見交換・交流会（18：15～）



初日の講義後には意見交換・交流会が開催され、受講者同士、受講者と講師の間での交流が積極的になされました。

【2012年8月3日】

### 第五講義（9：00 - 10：30）

#### 業務継続計画（BCP） 東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 指田朝久

東日本大震災における企業のBCP対応についての考察や、「事業継続の定義とは」という基本的な点からまず論じられました。続いて、事業継続のための10のポイント、BCPの重要な5要素（指揮命令系統の明確化、本社等重要拠点の機能の確保、対外的な情報発信および情報共有、情報システムのバックアップ、製品・サービスの供給）などについて、具体例に即した説明がなされました。最後に、業務継続の具体的な取り組みに向けて①市民へのサービスの供給、②部門毎の行動要領の明確化、③被災を前提に代替を考える、④平常時に取り組む準備業務、⑤訓練の実施の重要性が指摘されました。



## 第六講義 (10:45 - 12:15)

### 情報セキュリティ、人為災害・事故とリスク・保険 NKSJ リスクマネジメント株式会社 落合正人

情報セキュリティの概要と情報セキュリティ対策についての解説後、危機管理担当者が行うべき情報セキュリティ活動の枠組みを示しました。また、みずほ銀行のシステム停止事故の事例を挙げて、情報システムが停止するリスクにどのように対応すべきかが論じられました。講義のまとめとして、情報セキュリティ取り組みのポイント（トップが関与するリスクマネジメント体制の強化、守るべき情報・情報システムの特定・決断、優先対策すべきリスクシナリオパターンの決断、防止・防護策を検討・導入・検証・改善、危機管理対応策・業務継続策として様々な戦術を準備、演習の実施と対策改善・戦術追加）が挙げられました。



## 第七講義 (13:45 - 15:15)

### 感染症（新型インフルエンザ） 危機管理勉強会（斎藤塾） 塾長 斎藤 實

感染症の中でも特に感染力が高く、また社会・経済活動の面で全国的に影響を及ぼす新型インフルエンザについて定義をまとめ、感染症の中における新型インフルエンザの位置づけ、その特徴と今日までの歴史について解説しました。また、2009年の新型インフルエンザの蔓延を一例として、国が新型インフルエンザを危機事案とする理由と国としての対策の経緯や、東京都と先進民間企業の新型インフルエンザの事前対策として、BCP（事業継続計画）と概要、基本方針と対策、今日の取り組み状況やその危機管理体制等を詳述しました。



**第八講義 (15:30 - 18:30)**

**第九講義 (10:45 - 12:15)**

**危機管理演習 東京大学生産技術研究所 近藤 伸也**

目標管理型危機管理対応について、その概要と利点、留意点等、例を挙げて詳述した後、チームで目標管理型危機管理対応を身に着けるための図上演習 SEMO について説明しました。また、実際の演習では、クマ演習をベースに各個人の目標管理型危機管理対応計画を作成、班内で各班員が対応計画を発表、班としての対応計画を作成しました。翌日の演習発表会では、作成した各班の対応計画を発表、質疑応答、目標管理型危機管理対応に関するフリーディスカッションを行いました。



**【2012年8月4日】**

**危機管理士試験 2級(社会リスク)試験 (9:00 - 10:30)**

**講演 (13:30 - 15:00)**

**「最近の事故と危機管理の課題」 関西大学 河田 恵昭**

冒頭では「現代社会が持つ危機管理発生要素」として複雑性（システムは多くの部分と過程をもつ。全体を理解できない）、連結性（ほかの地域やほかの一見関係ないものと結びつく）、範囲と規模（想像以上に拡大する）、スピード（加速される）、顕在性（マイナス面を内密にすることがますます困難になる）というキーワードに関する説明がありました。講演では、具体的な事例として、タイの洪水被害、明石の歩道橋事故、津賀川の水難事故等が取り上げられ、危機管理上の問題点について指摘がなされました。講演の最後には、事故や災害が起こることを前提とした対応策を組織として考え、訓練を繰り返して対応の習熟化を図ることの重要性が指摘されました。



閉講式・修了証認定 (15:15 - 15:45)

修了者全員に市川宏雄理事長から修了証の授与がなされました。なお、合格者には修了証の他に危機管理士認定証、IDカードが後日郵送されます。



以上